

くらし

なるほど！

世界大恐竜展

ステゴは「屋根」とか「覆われた」という意味のギリシヤ語。トカゲを意味するサウルス（ラテン語）と合わせて「屋根トカゲ」。背中にある骨板にちなむ学名で、決して「捨て子トカゲ」ではない。

岡山理科大の林昭次博士はこの恐竜の背中の骨板や尾の先の「とげ」研究のパイオニアである。林博士は、年齢の違うステゴサウルスの骨板やとげの化石をエックス線CTスキャナーや電動カッターで輪切りにし、それを光が通るくらいの薄さまで磨き上げた薄片で化石の内部を観察した。

その結果、背中の骨板にはたぐさんの血管がアリの巣のようになり、さらに大人になると急激に大きくなることが分か

⑦ ステゴサウルスのとげ

成長とともに硬い武器に



背の骨板やとげが特徴的なステゴサウルス。防御力が高そうだが、骨板は守りにはあまり役立たなかったようだ

った。これは体温調節や、自己の存在をアピールするための「飾り」に有効である。一方、尾の先のとげは若いころはスカスカだが、成長とともに硬く緻密な武器に変わることが分かった。

ところで、怪獣ゴジラの背にある背びれのモチーフはステゴサウルスの骨板に違いないと私は確信している。ゴジラの第1作（1954年）では、背中のとげとげは鈍く光るだけであった。最近のゴジラ映画では激しく光り、破壊光線で周囲を焼き尽くすすごい武器になっている。こっちは年代と共にすごい進化だ。

（石垣忍・岡山理科大教授）

＝ 随時掲載

「よみがえる地球の覇者！ 世

界大恐竜展」（山陽新聞社など主

催）は9月1日まで岡山市北区駅

元町、岡山シテイミュージアムで

開催。8月19日休館。